

平成25年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況	
協議会	2,050,000	名瀬地区	宮古崎	0	50%	白化や食痕はみられず、健全なサンゴ群集が保たれている。
		宮古崎東	0	20%	周辺の礁縁では回復が遅れている。白化や食痕は見られなかった。	
		デン浜	0	40%	以前の食害により礁斜面下部は壊滅状態。新規加入は少ない。	
		知名瀬大浜	0	30%	以前の食害により礁斜面のサンゴは壊滅状態であったが、比較的新規加入の群体がみられる。	
		大浜	0	5%未満	本調査時には食痕はみられなかった。	
		摺子崎	0	10%	以前の食害により礁斜面は全滅状態。礁縁はハナヤサイサンゴ属が優占しているが、ミドリイシ属の小型群体も多い。	
		赤崎	0	5%未満	以前の白化現象により壊滅状態。南側の貝浜では回復傾向だが、赤崎周辺では回復が遅れている。	
		名瀬湾立神	0	10%	以前の白化現象により卓状ミドリイシ群落は壊滅。新規加入のミドリイシ属がやや増加傾向。卓上ミドリイシ属小型群体も見られる。	
		山羊島	0	20%	ハマサンゴ属が優占。大型のハマサンゴ群体が点在し、枝状のユビエダハマサンゴ群落が広がるが、破損部分も多く見られる。	
		キョンナ	0	5%未満	白化現象で壊滅後、被度10%まで回復してきたが、2007年にオニヒトデにより再び壊滅。新規加入のミドリイシ属は少ない。	
		有良	0	5%未満	以前に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。新規加入のサンゴは少ない。	
		芦花部	0	5%未満	以前に大量発生したオニヒトデによりほぼ全滅。新規加入のサンゴは少ない。	
		摺古崎礁池	0	5%未満	塊状のハナカササンゴの小群体や塊状ハマサンゴが点在する。ミドリイシ属の新規加入はほとんどみられない。	
		摺古崎礁原	0	10%	卓状ミドリイシ属が優占。以前、オニヒトデのリーフ内への進入を阻止し、サンゴを保全できた海域。食痕はみられない。	
		大浜礁池	0	5%未満	ミドリイシ属の小型群体がみられるようになってきている。	
		大浜礁原	0	10%	オニヒトデによる食害があったが駆除等により全滅は免れ、ミドリイシ属の小型群体が生存している。	
		崎原東	0	70%	卓状のクシハダミドリイシが優占。名瀬海域では生サンゴ被度が一番高い地点。白化や食痕もほとんどない。台風による破損もみられない。	
		崎原南	0	25%	樹枝状ミドリイシ群落の回復が進んでいる。種の多様性も高い。	
		仲干瀬崎(小湊南)	0	70%	順調に回復してきている。台風による破損もみられなかった。	
		笠利地区	赤木名	0	20%	サンゴ群集の約80%が白化し、部分死滅している群体も見られた。
前肥田	0		60%	サンゴ群体の半数が白化し、部分的に死滅している群体も見られた。		
赤木名立神	0		10%	以前の白化現象によってサンゴは壊滅したが、回復がみられる。サンゴ群体の半数が白化していたが、死滅している群体は見られない。		
蒲生崎入口	0		15%	以前の白化現象によりサンゴは壊滅。種の多様性は高いが、被度は10%15%に増加。		
蒲生崎	0		15%	蒲生崎周辺でサンゴの新規加入が多い海域。白化群体は見られない、被度は10%15%に増加。		
佐仁	0		50%	回復が特に順調な海域。サンゴ群体成長により被度は40%から50%に増加。		
用海岸	0		50%	回復が特に良好。種の多様性も高い。		
あやまる岬	0		40%	礁斜面がほぼ垂直に落ち込む地形。礁縁の卓状ミドリイシ群体の成長により、被度は30%から40%に増加。		
節田	0		60%	礁縁から礁斜面にかけて、クシハダミドリイシを中心に卓状ミドリイシ群落広がる。新規加入のミドリイシ類も多い。		
明神崎	0		40%	波当たりが強い礁縁にハナヤサイサンゴ類の群体が広がる。サンゴ群集は健全な状態。被度は30%から40%に増加。		
住用地区	用安	0	10%	新規加入のミドリイシ属は少ないが、今後卓状ミドリイシ属の成長に伴い、被度の増加が期待できる。		
	神の子	0	50%	白化や食痕はみられない。被度は40%から50%に増加。		
	高浜東	0	70%	サンゴ群集は健全な状態で、被度は昨年同様70%。		
	高浜	0	50%	サンゴ群集は健全な状態で、被度は昨年同様50%。		
	鳩ノ崎	0	5%未満	今回の調査時には白化群体はみられなかった。新規加入のサンゴは少ない。		
	トビラ	0	10%	堆積していた泥土は減少した。		
	スタルトビラ	0	10%	一部の群体(数%程度)はサンゴ食巻貝の食害を受けていた。被度は昨年と同程度。		
	和瀬	0	30%	軽度の白化、台風の破損もあり、被度は40%から30%へ減少。シロイシガイによる食害も見られる(数%程度)。		
	今里沖	0	5%未満	壊滅状態で骨格が残る。回復は見られない。新規加入のサンゴが少ない状態が続いている。		
	今里小浜	0	5%未満	被度は5%未満の状態であるが、サンゴの小型群体が増加傾向である。		
	名音沖	0	20%	被度は昨年10%から20%に増加。		
名音隧道	0	5%未満	サンゴ群体の成長に伴い、今後、被度の増加が期待できる。			

平成25年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況		
協議会	2,050,000 (再掲)	大和村	ヒエン浜(中央)	0	10%	新規加入のミドリイシ属は少ない。被度は昨年同様。	
		ヒエン浜(戸円側)	0	20%	局地的に大型群体がみられる。被度は昨年10%から20%に増加。		
		大山崎西浜	0	10%	周辺海域より多様性が高い。食痕もみられない。		
		トルス	0	5%未満	新規加入は少ない。		
		マッコ	0	10%	指状ミドリイシ属の小型群体が散見。サンゴ群体は健全な状態。被度は5%未満から10%に増加。		
		石川	0	5%未満	サンゴは壊滅状態で、ハナヤサイサンゴや指状ミドリイシ属の小型群体がまばらにみられる程度。		
		親川	0	5%未満	小型群体がまばらにみられる程度。リュウキュウウサンゴ群落がみられる。		
		宮古崎	0	10%	指状及び卓上ミドリイシ属の小型群体がみられる。		
		志戸勘トンネル沖コモリ	0	20%	礁原上にある直径50m、水深10mのすりばち状の窪み(コモリ)。小群落が点在している。周辺海域にあまりみられない種も存在。		
		志戸勘トンネル沖礁池	0	30%	小型群体が多くみられ、数メートルに広がる群落も点在している。礁池内ではサンゴが回復しているが、基部が死滅しているミドリイシが散見。		
		ヒエン浜礁地	0	5%未満	塊状ハナガササンゴが点在。ミドリイシ属の新規加入はほとんどみられない。		
		大棚	0	10%	ミドリイシ属やキクメイシ科の小型群体がみられる。礁縁付近の被度は10%に増加。礁池内は被度20%で回復が早くなっている。		
		新川南	0	10%	サンゴは健全な状態にあり、被度は10%から20%に増加。		
		国直北	0	20%	サンゴの成長に伴い、今後被度の増加が期待できる。今年度は20%に増加。		
		国直	0	20%	サンゴの成長に伴い、今後被度の増加が期待できる。今年度は20%に増加。		
		宇検村		普津高崎東	0	70%	大型群体も多く見られ、他地点より回復が早く、種の多様性も高い。
		外浜	0	40%	大型群体もみられるが、新規加入のサンゴは少ない。		
		屋鈍崎	0	5%	小型群体が散見できる程度に回復してきている。		
		屋鈍	0	10%	昨年は見られなかった、海藻ラッパモクが大量に繁茂し、サンゴ岩を覆っていた。		
	タエン崎	0	20%	サンゴの成長に伴い、被度は10%から20%に増加。			
	タエン	0	30%	内湾性の環境で生息するサンゴの多様性も高い。白化や食痕もみられなかった。			
	枝手久島北	0	70%	食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。			
	倉木崎	0	40%	白化や食痕もみられない。			
	船越海岸	0	70%	新規加入のミドリイシ属のサンゴも多い。食痕や白化もみられず、健全なサンゴ群集が広がっている。			
	龍郷町		赤尾木	3	40%	砂地にハマサンゴの根が点在。枝状・卓状ミドリイシの成長がみられる。	
	白浦	3	15%	一部オニヒトデ・レイシガイの食害がみられる。			
	嘉渡	0	10%未満	数年前から確認している稚サンゴが順調に大きくなっている。			
	円	1	10%未満	数年前から確認している稚サンゴが順調に大きくなっている。			
	ハナゴイ	2	40%	ミドリイシ系の大きさ・個体数も増えているように感じる。			
	今井崎	2	30%	ミドリイシ系の成長と稚サンゴがみられる。ハマサンゴの点在もみられる。			
	ウマズバマ	0	30%	食害後は変化なし。			
	戸口落水	0	30%	部分的に成長しているようだが、大きな変化はみられず。			
	戸口アーチ	1	35%	前年と変化なし。			
アウン	0	20%	稚サンゴが確認できる。				
倉崎	0	30%	ミドリイシ系の成長がみられる。				
久場	0	20%	以前ユビエタハマサンゴが群生した場所は変わらず死滅状態。深場にセンベイサンゴ・ユビエタハマサンゴが群生。				
瀬戸内町	281,000	実久	0	0-24	新芽のサンゴが順調良く成長している。		
		デリキョウマ崎	0	0-24	良好なサンゴ礁が形成されている。		
		黒崎	0	0-24	サンゴががれき状態である。少し新芽サンゴがある。		
		安脚場	0	25-49	サンゴ状況は良好。岸近くはがれき状態。		
		花良治	0	25-49	昨年の台風によりサンゴが破壊されたところにはまた新しいサンゴの定着は見られない。 オニヒトデ食痕は見られない。		

平成25年度サンゴ礁モニタリング調査結果

市町村名	調査費	調査地点	ヒトデ数	被度(%)	状況
喜界町	396,000	池治	0	5-24	台風による影響は見られず、オニヒトデ食痕も見られない。
		塩道	0	5-24	オニヒトデ食痕は見られない。しかし、水深3.6m地点のミドリイシ1個体にホワイトシンドロームと見られる白化あり。また、調査範囲を広げた300m沖8.6m地点でも1個体同白化あり。
		小野津	1	5%未満	ビーチよりファンダイビング時に水深1.8mで18cm程度のオニヒトデ発見。採取及び破棄。
徳之島町	160,000	畦	5	65%	白化は見られない
		母間	6	65%	健全なサンゴ群集が保たれている。
天城町	357,000	松原漁港沖	0	15-25	死滅したサンゴ礁は海草で覆われている。
		浅間沖	0	15-25	死滅したサンゴ礁は海草で覆われている。新しいサンゴの芽生えは見当たらないが、生息しているサンゴの状態は良かった。
伊仙町	178,000	喜念崎	1	60%	若干白化現象が見られたが、サンゴは良好である。
		佐弁	3	50%	オニヒトデのサイズは小型で、サンゴは良好である。
		面縄	3	60%	白化現象等見られず、サンゴの状態は良好である。
和泊町	241,000	出花	1	40%	サンゴの範囲が広がった個所もあり今後期待できる。
		イダシチ	2	40%	周囲の被度・雰囲気は変わらず。
		ワンジョ	0	40%	被度は変わらず。全体的に元気がよく、目立った病気や被害はない。
		西原	2	40%	波が強いようだがサンゴの破壊はない。
知名町	205,000	沖泊(沖泊)	0	0-24	台風の影響で対象にしていたサンゴが2カ所消失していたので、新たに対象を決定。
		屋者	0	5%未満	モニタリング対象のサンゴがレイシガイの被害を受けていた。
		屋子母	0	5%未満	海藻が増加傾向にある。
与論町	532,000	茶花沖(北側)	0	50%	健全なサンゴ群集が保たれている。ただし、オニヒトデは発見できなかったが、食痕があり今後も調査が必要。
		茶花沖(南側)	0	40%	白化や食痕はみられず、健全なサンゴ群集が保たれている。
		長崎沖	0	50%	サンゴはミドリイシの仲間、浜サンゴの仲間が多く
		皆田沖	0	30%	全体的にみるとラブリイも昨年と同様である。
		赤崎沖(A)	0	30%	昨年同様、オニヒトデの確認はなく、白化や食痕は見られなかった。
		赤崎沖(B)	0	30%	昨年と比べ、サンゴの状況は比較的良好。ただし、20m程沖に出るとサンゴの状況は昨年同様。
合計	4,400,000				